

広島第一県女 戦後の通学（その1）

アーカイブズ継承委員会に託していただいた資料、今回は第一県女新聞創刊号から戦後の学生の通学の様子についてお伝えします！

原爆投下の日からわずか1年後、早くも県女新聞は発刊されました（戦後の、被爆後の厳しい状況の中で、これは驚きです！）。

その中に、生徒の通学状況に関する調査結果が報告されています。

◆表1 通学所要時間調査 広島第一県女新聞創刊号 昭和21年(1946年)8月6日

5分以内	1%	1時間以内	24.5%	2時間半以内	8%
10分以内	3%	1時間半以内	24%	3時間以内	3.5%
30分以内	13.5%	2時間以内	22%	3時間半以内	0.5%

◆表2 通学状況調査 広島第一県女新聞創刊号 昭和21年(1946年)8月6日

宇品線利用者	58%	うち	本線上り	21.5%	本線下り	7%
			可部線	14.3%	芸備線	8%
			呉線	3.2%	徒歩（広島駅迄）	5%
市電通学者	20.5%					
徒歩通学者	21.5%					

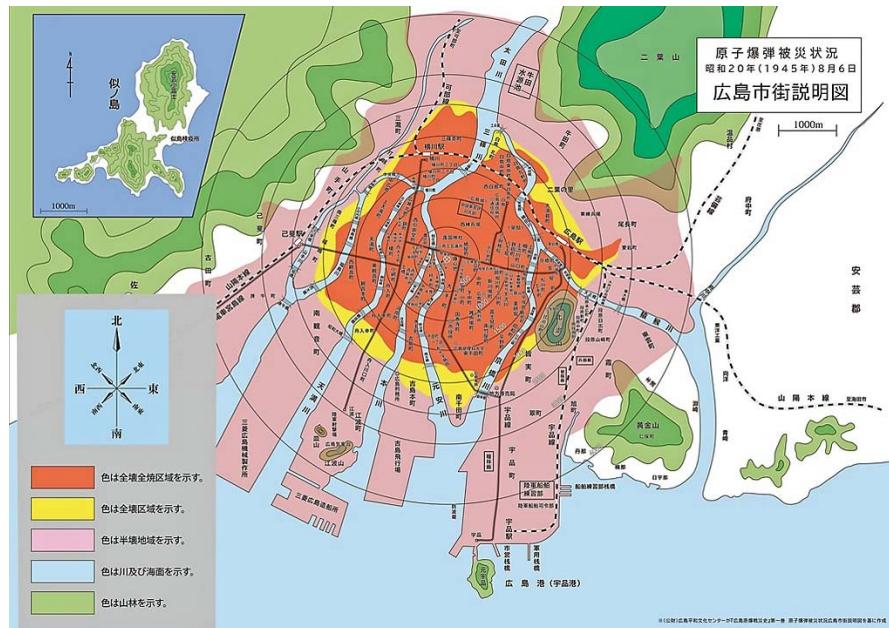
通学時間30分以内が17.5%です。相当通学に時間がかかったことがうかがえます。

広島駅から、今は廃線となった宇品線利用が半数以上というのも驚きです（宇品線通学については、後日「宇品線での通学」でご紹介します）。

◆表3 広島市『市勢要覧』昭和30年(1955年)度「市制施行後の人団推移」より作成

年月	世帯数	人口
S20年7月	80,872	312,277
S20年11月	33,272	136,518
S21年4月	41,875	171,204
S22年10月	57,026	222,434
S23年8月	61,361	246,134
S27年12月	78,531	321,973

この資料には、広島市内の世帯数や人口の推移が載っています。昭和 20 年 7 月から 9 月の間に 175,759 人の人口減があったのは、もちろん原爆によって広島が焦土と化したことによるものです。被爆前の人口を追い越すには 7 年もの月日が必要でした。その間、市内校の学生たちも、郊外から通学していた人が多かったということでしょう。



— 広島第一県女が移転した旧陸軍被服支廠跡地

◆図1(上) 出典:「原爆被災地図」昭和46年(1971年) 広島平和文化センター

『広島原爆戦災誌』第一巻 「原子爆弾被災状況広島市街説明図」を基に作成

◆図2(下) 出典:「新広島市地図」昭和22年(1947年)6月 長船友則氏収集資料

広島県文書館所蔵 資料番号 200407-873

創刊号からわずか1年半後の県女新聞の「通学調査」では、

「一月十四日調査班は生徒の通学方法及び通学時間、住所について調査を行ったところ、市内の通学者は全校生徒の53%を占め=以前の調査=に比べてみると相当の増加を示し疎開者の広島復帰が次第に行われている事がわかる。」とあります。

◆表4 住所 広島第一県女新聞13号 昭和23年(1948年)2月1日

広島市	600名	寄宿舎	54名	高田郡	6名
佐伯郡	160名	賀茂郡	11名	県外	3名
安佐郡	106名	比婆郡	7名	双三郡	1名
安芸郡	91名	呉市	6名		

◆表5 通学時間 広島第一県女新聞13号 昭和23年(1948年)2月1日

30分以内	211名	3時間以内	90名
1時間以内	368名	3時間以上	9名
2時間以内	304名		

◆表6 通学の種類 広島第一県女新聞13号 昭和23年(1948年)2月1日

徒歩	27%	山陽本線上	8.1%	市内電車	15%
呉線	2.2%	芸備線	8.2%	舟	4%
山陽本線下	15%	宇品線	7.7%		
宮島線	6.2%	可部線	6.6%		

昭和21年と昭和23年の通学所要時間をパーセントで比較すると、1時間以内の生徒が、42%から59%に増加しています。生活が少しずつ(ほんの少しかもしれませんが)落ち着いてきたからではないでしょうか。

◆表7 通学時間比較 広島第一県女新聞1号・13号より作成

通学所要時間	S21年	S23年
~30分	17.5%	21.5%
30分~1時間	24.5%	37.5%
1時間~2時間	46.0%	31.0%
2時間~	12.0%	10.0%

◆写真1 「23年に登場した婦人専用車 客車が足りず出入り口に横木を打ち付けた貨車を使った」

昭和23年(1948年)6月

出典:宇品線関係資料1 長船友則氏収集資料 広島県文書館所蔵 資料番号 200407-3335



当時、たくさんの生徒が利用した宇品線での通学風景です。「女子専用車」も満杯！
学生も社会人も、戦後の混乱の中で日々たくましく生きていたことがうかがえますね。